

苦味がおいしいお年頃



荒田珈琲
新聞 ㊤
Vol. 76

2024. 2. 22 (木)

インターネットで見かけた「子どもの頃は嫌いだっのに大人になると好きになるものアンケート」調査によると第1位は「ピーマン」でした。昔はダメだった苦みをおいしく感じられるようになったという声が多く、似たような理由でゴーヤもランクインしていました。味覚は成長とともに変化するのでね。



もしかすると珈琲も、苦味がいつしかおいしく感じられるものの筆頭かもしれません。

社会人になってから飲む機会が増えたり、食わず(飲まず?)嫌いで後から好きになったというパターンもありますよね。(ちなみに)先ほどのアンケートを

フェリチンとフコキサンチンの
目下の物 苦みでした
(今は好きよ!!)

自分に当てはめてみると、ヨメの場合は「酢の物」が思い浮かびます。



子どもの頃はお酢の酸っぱさが苦手でした。ハンバーガーからピクルスを抜いていたものです。それが今となっては必要な食材だと思いまあし。サーモンクリームチーズのベーグルにも 味を引き締めるアクセントとして欠かせません

店主にも同じ質問をしてみると「トマト」だそうです。確かに、つきあい始めの頃は苦手だと言っていたような気が。でもヨメが食卓にトマトばかり出すものだから、気づく味に慣れておいしさも気付いて好きになったみたいで、しめしめ... 🍅



人が味を感じ取る味蕾(みらい)という組織は舌の全体にあります。場所によって感じる味が違うともいわれ 諸説あるようですが、少なくとも珈琲を飲むとき口をおぼめて舌先だけで味わうのと、口に含んで舌全体で味わうのでは風味が違って感じられます。苦みとともにほのかな甘みや果実由来の酸味があり喉を通過していくまでに、鼻を抜ける芳香と「味」が複雑に広がっていきます。興味深いことに、味蕾は子どもの方が数が多く敏感で優れているのだとか。加齢によって機能が衰えてしまうのは残念ではあるものの「珈琲がうまいっ!」と思えるようになる変化は幸せと言えなくもないかな!? 😊



今年の2月は雪が降ったと思ったら その数日後には春の暖かさかやてきて、目まぐるしい天気と急な季節の変化に戸惑います。例年より早く春一番が吹き、草花や街路樹もつきつき花が咲き始めて、普段ならワクワク嬉しいはずなのに気持ちが追い付きません。雪解けに顔を出した、ふきのとうを見つけて春の訪れを知るような、ゆるやかな三寒四温が恋しいなあ...。店の外ではビオラの鉢に居候している ど根性ペチュニアが昨夏から咲き続けてとうとう越冬してしまいました。あーいぞう! これから一層 活発になる植物のお世話で園芸部も忙しいシーズンを迎えます 🌸 Spring has come! 春が来た!

3月のお休み
4(月)・11(月)・12(火)
18(月)・25(月)・26(火)
もうすぐ梅の咲く頃です

いちごの旬に
「いちごミルク寒天」
「ババットディング」
いちごソース
イチゴ一菓一会で
召し上がれ 🍓



店主の
ひとこと